

万引対策百般

TOKYO立(だ)ち その6

先達から今に受け継ぐ再犯防止教育の精神を偲ぶ



NPO法人 全国万引犯罪防止機構

万引の再犯率は昭和48年には1割程度であったが、平成27年には5割を超えた。再犯防止に関して、今回の国際会議では、eBay元役員のアール・ジョーンズ氏が「ネット企業の盗品転売防止対策」の後半で「米国に於ける革新的万引防止ソリューション」修復的司法」の説明を行った。さらに香川大学教育学准教授の大久保智生氏が「全米万引防止協会(NASIP)との再犯防止教育プログラムの開発」を紹介した。なお、香川大学と当機構は共同でNASIPの再犯防止プログラムの日本版を開発したいと考えている。東京都青少年・治安対策本部安全・安心まちづくり課が3月に発表した「高齢者による万引に関する報告書」の157頁にも同様のプログラムに関する言及がさ

れている。また、この国際会議には法務省刑事局刑事課からも2名の参加があった。万引の再犯率を好転させるためにも小さくとも目に見える成果を出さなければならぬが、まずは足元を固める意味で、瀧川政次郎著の「長谷川平蔵 その生涯と人足寄場(中公文庫)」を紐解きながら、先達の精神を偲びたいと思う。

陸奥白川藩(いまの福島県南部)の若き藩主松平定信が取り組む仕事は食糧難対策だった。彼が藩主になった1783年には、アイスランドのラキ火山の大噴火、浅間山の噴火があり各地に火山灰を降らせた。火山の噴火は日射量低下による冷害をもたらし、農作物は壊滅的な被害が生じた。このため翌年度から深刻な食糧難と

なり、特に日照時間が少ない東北地方は慢性的な飢饉が続き、推定92万人の餓死者が出た。いわゆる天明の飢饉だ。当時あった子殺しの習慣「問引き」の防止やそのことによる人口減少に歯止めをかけるために、若き松平定信は領民に赤子養育費や子育て手当を支給した。現代の「出産育児一時金」「子ども手当」の先駆けである。自らが率先して儉約に努め、領民に対する食料救済措置を迅速に行なったため、白河藩では天明の大飢饉による餓死者は出なかったと言われている。これは東北地方では奇跡に近い異例なことだった。この実績が高く評価され、定信は老中にあり、都市災害対策積立制度「七分積金法」設立などの寛政の改革を推進することに。

その後、江戸では長く続いた飢饉により農村からあふれる者や無宿人、博徒が横行し、商店の打ち壊しなどの集団破壊活動が頻発していた。それを取り締まったのが火付盗賊改方だ。その長である長谷川平蔵は大変有能だった。当時の有名な随筆は、「賞罰正しく、慈悲深く、頓智の裁き多し。人々大岡様と称し、本所の平蔵さまとして世に

うようになった。つまり、犯罪が起こりにくい社会作りが必要だと気づいたのである。そこで彼は、世界的に見ても類を見ない浮浪者・犯罪者の自立支援プログラムを老中松平定信に提案した。彼が起案した初代の奉行を務めた人足寄場とは徳川幕府が江戸石川島に設置した軽犯罪者・浮浪者の自立支援施設のことである。特に自立支援的なアプローチを取り入れた点が当時としては画期的だった。個人の経歴や能力に合わせた職業訓練だけでなく、生活指導プログラムとして

て、月3回の道徳教育がなされた。人足寄場に收容された人々は道徳教育で語られた愛の物語や正義を貫いた先人たちの話に感動して、よく涙を流したといわれ社会復帰にあたっての精神的な支えになった。人足寄場を卒業する時、江戸での商売を希望する者には店舗を、農民には田畑、大工になる者にはその道具が支給された。

江戸の人々は人足寄場に販売せよ」と言われてしまつ。飢饉により進んで市民の救助にあたり、また江戸の大火事の際も消火活動をしたからだ。人足寄場にいた新門辰五郎と蔵は、北町奉行と

て、月3回の道徳教育がなされた。人足寄場に收容された人々は道徳教育で語られた愛の物語や正義を貫いた先人たちの話に感動して、よく涙を流したといわれ社会復帰にあたっての精神的な支えになった。人足寄場を卒業する時、江戸での商売を希望する者には店舗を、農民には田畑、大工になる者にはその道具が支給された。

に参加した。後に彼は將軍の身辺警護の責任者にまで出世した。今でいう総理大臣を守るSPだ。そのようなこともあり、江戸の人々は人足寄場を温かく見守り続けた。しかし、人足寄場を運営するのは多額の資金が必要だった。平蔵は幾度か老中松平定信に相談したが、「不足分はもつと紙や工芸品や炭を作って江戸の人々

に販売せよ」と言われてしまつ。飢饉により進んで市民の救助にあたり、また江戸の大火事の際も消火活動をしたからだ。人足寄場にいた新門辰五郎と蔵は、北町奉行と

と相談し、幕府から預かっていた寄場の運営資金を両替相場に投資し、その利益を運営資金に充当するという型破りの手段を用いざるを得なかった。松平定信は自伝で「人足寄場によつて無宿人たちは減り、犯罪も少なくなった。これはすべて長谷川平蔵の功績である」と書き遺している。しかしながら、田沼時代の賄賂政治を毛嫌いしていた松平定信は、平蔵のとりまわりの人足寄場の労働には給料が与えられ、その一部は積み立てられて刑を終えてのち、職業を再開するために用いられる。すべての受刑者はそこを出るときには職を身につけており、我々フランスの受刑者の境遇よりも遙かによい環境にある」と。刑務所から出た人が、お金、住むところ、職業がなければどうなるか？ プスは、そのことを力説している。

その後、人足寄場は明治10年警視庁管轄下の石

川島監獄署となった。その精神の一端は、巢鴨監獄を経て府中刑務所に引き継がれることになる。明治期に入り、新政府は西洋のポリス(警察)制度を導入して最初は「同心」に代えて「ポリスマン」と呼称したが、庶民は、江戸時代に親しんだ呼称「廻り同心」「定



「さぶ」は人足寄場が舞台になった珠玉の小説



寄場人のために平蔵が作らせた稲荷神社は、いまも府中刑務所内に祀られている

平蔵の死後77年を経た明治5年、日本政府に法律顧問として招かれた、法学者ジョルジュ・ブスケというフランス人が人足寄場を訪ね、その独創性と先進性におどろき、かつ高く評価している。ブスケいわく、「我がフランスでは監獄にいる受刑者を養成することに心がけず、受刑者の労働から得た利益を国が奪い取り、その受刑者が監獄を出るときには手に職をもつていない。それに比べ、人足寄場の労働には給料が与えられ、その一部は積み立てられて刑を終えてのち、職業を再開するために用いられる。すべての受刑者はそこを出るときには職を身につけており、我々フランスの受刑者の境遇よりも遙かによい環境にある」と。刑務所から出た人が、お金、住むところ、職業がなければどうなるか？ プスは、そのことを力説している。

その後、人足寄場は明治10年警視庁管轄下の石川島監獄署となった。その精神の一端は、巢鴨監獄を経て府中刑務所に引き継がれることになる。明治期に入り、新政府は西洋のポリス(警察)制度を導入して最初は「同心」に代えて「ポリスマン」と呼称したが、庶民は、江戸時代に親しんだ呼称「廻り同心」「定

全国万引犯罪防止機構(通称:マンボウ)万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人

文・事務局(稲本義範)